スポーツ庁
JAPAN SPORTS AGENCY

令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

宮城県 白石市

自 治 体 名 ： 宮城県白石市
担 当 課 名 ： 生涯学習課
電 話 番 号 ： 0224-22-1343

1.自治体の基本情報

スポーツ庁

基本情報（令和６年10月時点）

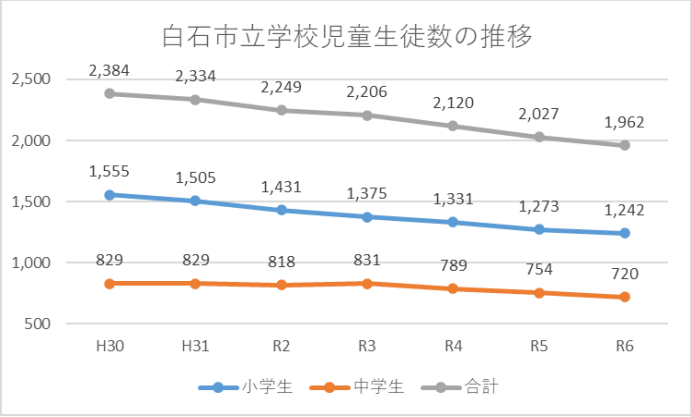
面積	286.47 ㎢
人口	30,694 人
公立中学校数	5 校
公立中学校生徒数	720 人
部活動数	36 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

少子化に伴い、一つの中学校だけでは特定の運動部を設けることが難しい状況が生じており、設置している運動部の精選が各学校の課題の一つとしてあげられている。また、競技、指導経験がない教員が運動部顧問をしている場合があり、心身ともに負担が大きくなっている。

一方、生徒からは「もっと上手くなりたい」「成長したい」との声もあり、更なる指導者及び練習内容の質を向上と充実を図る必要がある。更に、これまで実施していた中学校以外からも地域移行の要望があることから、指導者の増員も視野に、地域移行の取組の拡大を図らなければならない。

また、生徒、学校、指導者等をつなぐコーディネーターの役割も重要であることから、資質向上に取り組むとともに、生徒や保護者、指導者、学校等のニーズの的確な把握や、受益者負担の適切な設定や徴収方法の検討などを行うこととする。



出典:白石市在籍児童生徒数

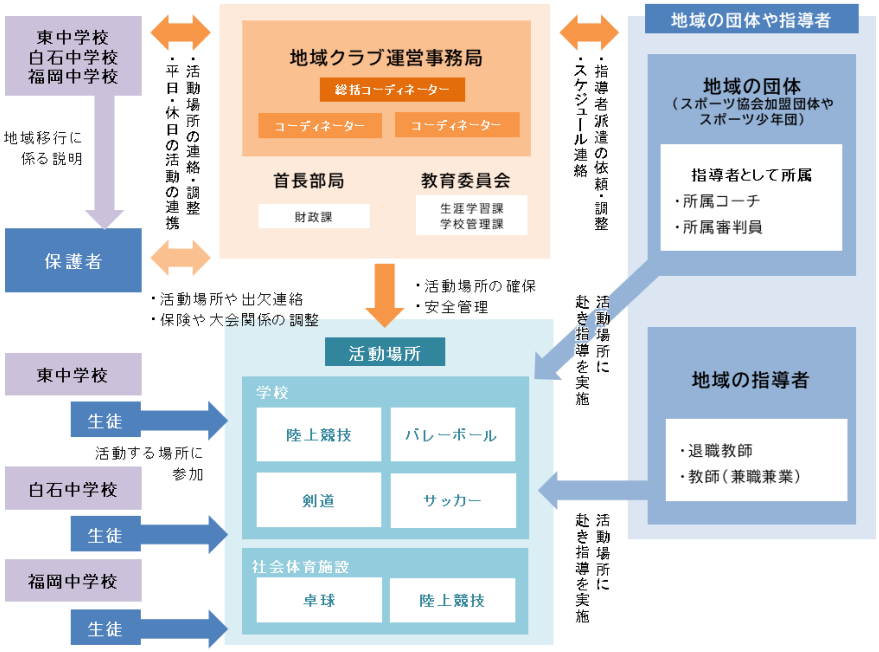
【課題】
現在の白石市の出生数を鑑みると、今後減少傾向はますます大きくなることが想定される。

2.実証内容と成果

スポーツ庁

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◉教育委員会

・生涯学習課（スポーツ主管課）
…実証事業主管、実施主体との連携

・学校管理課（学校体育担当課）
…学校部活動、部活動指導員の調整

◉首長部局

・財政課…予算措置

年間の事業スケジュール

令和6年　5月	拠点校における実施準備 第1回指導者会議 保護者説明会 第１回白石中学校との打合せ
令和6年　6月	地域スポーツクラブ活動開始 第1回福岡中学校との打合せ 第2回白石中学校との打合せ
令和6年　7月	第2回福岡中学校との打合せ
令和6年　8月	第2回指導者会議
令和6年　9月	第3回白石中学校との打合せ
令和6年11月	第1回指導者研修会
令和6年12月	第1回拠点校実施協議会
令和7年　1月	第2回指導者研修会 アンケート実施 (生徒,保護者,教員,指導者)
令和7年　2月	第3回指導者研修会 第2回拠点校実施協議会

2.実証内容と成果

スポーツ庁

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	1 校	実施した地域クラブ総数	1 クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		5 クラブ（5 部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		0 クラブ
全体の指導者数	8 人	全体の運営スタッフ数	4 人

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者（学年別）	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数（他クラブと兼務）	会費	大会参加方法
白石市総合型地域スポーツ･文化クラブ	総合型地域スポーツクラブ	陸上競技 サッカー バレーボール 卓球 剣道	月 3 回 月 1 回 週 1 回 週 1 回 月 1 回	9時～12時 13時～16時 など	3学年 4人 2学年19人 1学年21人	令和6年6月～令和7年2月	東中学校 市中央公民館 市陸上競技場 ほか	8 人	4 人	0 円	中体連：部活動 その他：地域クラブ

2.実証内容と成果

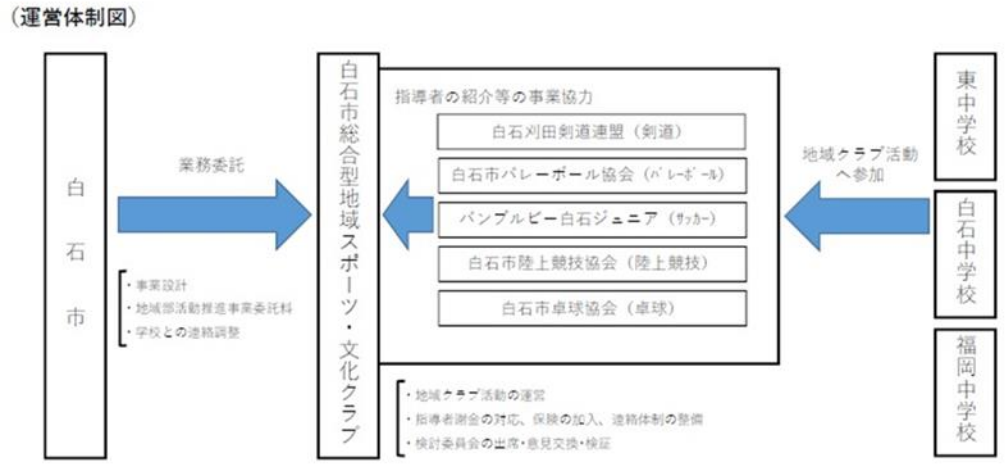
スポーツ庁

主な取組例

●白石市総合型地域スポーツ･文化クラブ　活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	陸上競技、サッカー、バレーボール 卓球、剣道
運営団体名	白石市総合型地域スポーツ･文化クラブ
期間と日数	陸上競技：6月～2月　月3回程度 サッカー：6月～2月　月1回程度 バレーボール：6月～2月　週1回程度 卓球：6月～2月　週1回程度 剣道：6月～2月　月1回程度
指導者の主な属性	元教員、小中学校教員、協会審判員
活動場所	東中学校、白川中学校 市中央公民館、市陸上競技場
主な移動手段	自転車
１人あたりの参加会費等（年額）	0円
１人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒１人あたり：800円/年 指導者１人あたり：1,850円/年

●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

●統括コーディネーター

役割：活動における管理者として、学校、保護者、指導者との連携を行う

●コーディネーター　３名

役割：統括コーディネーターの補助として、連携を行う

●指導者　８名

役割：活動において、生徒への指導を行う

2.実証内容と成果

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

○広域的な活動を行う統括コーディネーターを１名配置し、関係団体・市との連絡調整・指導助言等を行う。

○中学校区でのコーディネーターを配置し、運営団体・実施主体と中学校の連絡調整を行う。

○参加者管理、参加者・保護者・指導者への連絡にICTを活用。

取組の成果

○統括コーディネーターを運営団体に配置したことにより、関係団体との連絡調整・運営等を円滑に行うことができた。

○白石中学校、福岡中学校において、実証事業に向けた打合せを複数回実施し、参加までは至らなかったが、次年度へ向けた連絡調整を行うことができた。

○クラブごとのLINEグループを作成し、同意の上加入してもらうことで、活動日程や当日欠席の連絡、活動の開始時と終了時の報告等、スムーズな連絡体制が確立された。

コーディネーターの具体的な動きの実績

【統括コーディネーター】

・月１回のペースで各クラブを巡回し課題等のヒアリングを実施

・学校、参加者、指導者への連絡調整を実施

今後の課題と対応方針

●コーディネート業務を担う人材の発掘・育成、資質向上を図る方策の検討を行う。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　イ：指導者の質の保障・量の確保①

取組事項

〇スポーツ協会、競技団体、大学等と連携し、指導者の確保に努める。

〇地域スポーツクラブ活動に携わる指導者全員を対象に研修会を開催。

取組の成果

・スポーツ協会加盟の競技団体経由や事業に積極的な教員の兼職兼業により指導者を3名確保した。

・年3回、指導者研修会を実施し、各回平均6人の参加があった。

2.実証内容と成果

取組内容

●取組項目名　イ：指導者の質の保障・量の確保②

指導者研修の内容

●対象：クラブ登録指導者

【コンプライアンス研修会】

・目的：指導者が法令や統一的なクラブ運営の理念を理解してもらい、コンプライアンス違反を未然に防ぐこと

・工夫した点：研修を受ける前に悩んでいることを出してもらい、今の指導者は技術的な指導方法よりも保護者や生徒との関わり方の悩みが多い傾向にあることを理解してもらったうえで受講してもらった。

【普通救命講習会】

・目的：緊急時に救命処置を実施できるようになること

・工夫した点：繰返し実践することでの反復学習

【運動が上達する体の土台作り講習会】

・目的：体幹の意識や動きの連動を学ぶこと

・工夫した点：楽しく体を動かしながら体づくりを学べるようにしたこと

指導者研修の参加実績

・開催日：　11月17日、1月25日、2月16日

・開催回数：　3 回

・参加人数：　17 人

受講者の声

【コンプライアンス研修会】

「スポハラには、コーチから生徒に対してのほか、保護者からコーチに対してのもあること、子ども同士でもあることを学ぶことができた」

「自分の意見を言わず、傾聴を意識したい」

【普通救命講習会】

「とても参考になった。毎回受けていても時間と共に忘れてしまうので定期受講は大切だと思う」

「実践することの大切さを学んだ」

【運動が上達する体の土台作り講習会】

「遊びの中での学びがあるとわかった」

「早速普段の練習に取り入れたいと思う」

今後の課題と対応方針

●指導者が1名体制の協議クラブもあり、無理なく持続可能な体制にするためにも指導者の確保が必要である。引き続き各団体と連携し、指導者の確保に取り組む。

●研修に対する指導者の満足度は高く、開催頻度の向上や継続的な取り組み、さらには内容の充実が求められており、今後も質の高い研修を実施していく。

2.実証内容と成果

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

〇スポーツ協会、競技団体、高校、大学と連携し、指導者の派遣依頼や合同練習会を開催。

取組の成果

〇指導者のつながりから、陸上競技においては管内の中学校、高校と、バレーボールにおいては管内や県外の中学校、高校と合同練習を行った。

合同練習をすることで、他の地域とのつながりや世代間交流・連携などを構築することができ、生徒の技術力の向上、指導者の質の向上を含めて効果的な取り組みとなった。

〇卓球においては、月１回程度の頻度で各種大会に出場。試合の緊張感や勝利への喜び、仲間と協力する楽しさを実感し、競技の楽しさを知ることができ、活動への意欲につながった。

今後の課題と対応方針

●今後も、他団体と連携をとり、生徒の技術力の向上や指導者の質の向上を図っていく。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　エ：面的・広域的な取組

取組事項

〇これまで実施していた東中学校に加え、白石中学校、福岡中学校の実施希望している運動部も地域に移行。

取組の成果

〇各中学校において、実証事業に向けた打合せを複数回実施し、参加までは至らなかったが、次年度へ向けた連絡調整を行うことができた。

今後の課題と対応方針

〇移行に取り組む競技を選定し、クラブ活動と部活動を並走させながら、クラブ活動への統合を目指す。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　オ：内容の充実①

取組事項

〇高校生と合同で練習を実施。
〇ニーズや意見等が反映される取組を実施するため、実証事業の実施に対して、生徒、保護者、指導者、教員へのアンケート調査を実施。

活動の詳細

参加人数	16 人	指導者数	5 人
属性	世代間交流に関する取組		
具体的な内容	陸上競技は毎月の仙南地区合同練習のうち1回、バレーボールは遠征の合同練習時に、他の中学校と合わせて高校生との合同練習を実施。		
子供の声	● 自分がやっている種目に対してアドバイスをもらい、以前に比べて上達できた。 ● アドバイスがわかりやすくてよかった。 ● 普段の練習より更に上のレベルを体験することができた。 ● 良い見本を見ることができて感動、こうなりたいと思った。 ● この先輩と一緒に練習がしたい、この高校に行きたい、そう思うきっかけになった。		
関係者の声	● 子どもたちは、指導者（大人）から伝えるのとはまた違ったとらえ方で高校生のアドバイスを聞いてくれるので、良い刺激になっている。 ● 各々の専門分野や指導方法を持った指導者が増えることにより、子どもたちの技術力の向上につながるのはもちろん、指導者の指導方法の拡大にもつながる。		
運営経費	指導者間の連携で実施したため費用はかかっていない		

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

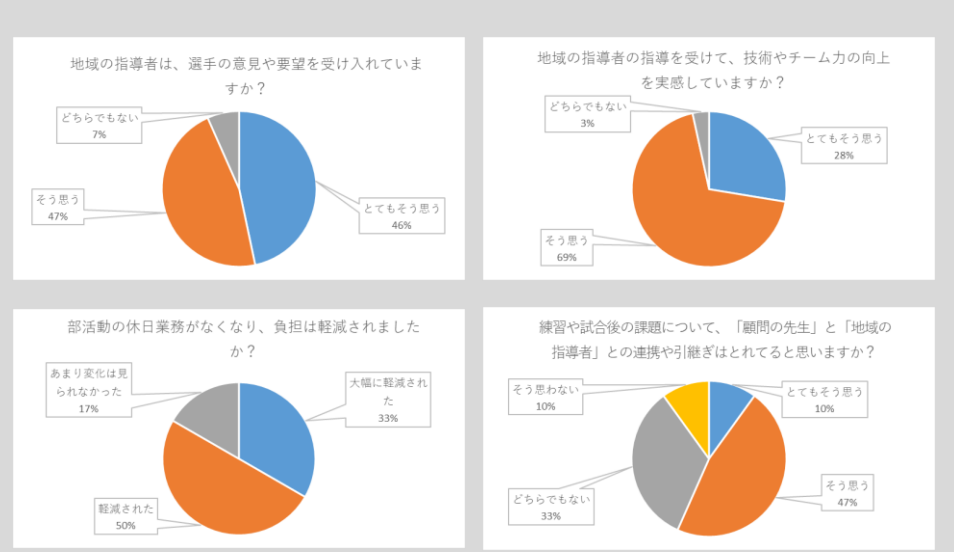
●取組項目名　オ：内容の充実②

取組の成果

〇高校生と合同練習をすることで、世代間交流・連携などを構築することができ、生徒の技術力の向上、指導者の質の向上を含めて効果的な取り組みとなった。

〇参加した中学生40人を対象としたアンケートの結果、回答者の93%が「指導者は選手の意見や要望を受け入れている」と回答。同じく97%が「指導者の声掛けや教え方は良かった」「指導者の説明や手本は分かりやすかった」「指導者の指導を受けて、技術やチーム力の向上を感じている」と回答。

〇対象部活動の顧問6人を対象としたアンケートの結果、5人が「部活動の休日業務がなくなり負担が軽減された」と回答。



白石市実証事業満足度調査アンケート（実施期間：令和６年12月）の結果抜粋

今後の課題と対応方針

〇参加した中学生を対象としたアンケートの結果において、上記のように指導者の指導方法には満足を得ているので、良い面はできる限り継続する。

〇「練習や試合後の課題について、顧問の先生と指導者との連携や引継ぎはとれていると思うか」の問いに対し、「そう思う」が57%、「どちらでもない」が33%、「そう思わない」が10%だったので、「そう思う」生徒を増やすため、これまで以上に顧問の先生と指導者が良い連携がとれるようコーディネイトしていく。

2.実証内容と成果

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　カ：参加費用負担の支援等①

取組事項

〇会費の適切な設定・徴収方法の検討

地域クラブに係る経費

■イニシャルコストの分析

■ランニングコストの分析

・指導者謝金（749千円）
・指導者旅費（88千円）
・消耗品費（62千円）
・連絡アプリ使用料（58千円）
・保険料（58千円）
・コーディネーター人件費（999千円）

持続的な運営に必要な受益者負担額の試算

持続的な運営に必要な受益者負担額の試算を行った。
（検証結果の詳細は次ページ参照）

収支バランス

今後、地域クラブに係る経費を、クラブ活動費とクラブ運営費の２つに分けて考える。令和６年度で見ると全体の58.2%を占めるクラブ運営費は公費負担とし、41.8%のクラブ活動費をどこまで受益者負担で賄うか。
今回の40人という参加者数でクラブ活動費を負担するのは、一人当たりの負担が大きすぎて現実的ではない。
収入は現時点では全額公費負担で対応。

2.実証内容と成果

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　カ：参加費用負担の支援等②

取組の成果

〇運営主体の収支構造を2つに分けて検証を行う。

「クラブ運営費」については、生徒へ直接的に支援している経費ではないので、国費や市の自主財源を活用し、「クラブ活動費」を受益者負担の対象に検証を行っていくこととする。

〇クラブ活動費全体を参加者に負担を求める場合であっても、指導者への謝金と生徒と指導者の保険料の２つに絞って負担を求める場合であっても、月額2,000円を超えてしまう。

〇一部の部活でしか取り組みができておらず、ほかの部とのバランスを考えると、負担を求めるのは難しい。

〇保険料のみの負担であれば、年額にしても1,500円程度なので、理解が得られる可能性はある。

項目	費用	割合
クラブ活動費	1,015,414	41.8%
諸謝金	748,800	30.8%
旅費	88,200	
消耗品費	62,262	
連絡アプリ使用料	57,942	
保険料	58,210	2.4%
クラブ運営費	1,413,677	58.2%
人件費	998,500	
振込手数料	4,980	
消費税相当額	189,371	
一般管理費	220,826	
合計	2,429,091	

⇒公費負担

	月額	公費負担額
案①「クラブ活動費すべて受益者負担」⇒	2,821円/月	1,413,677円
案②「謝金と保険料を受益者負担」⇒	2,242円/月	2,220,687円
案③「保険料のみ受益者負担」⇒	162円/月	2,370,881円
算出根拠⇒	費用/①/②	合計-費用

①	活動月数	9
②	申込者	40

出典:令和６年度白石市地域スポーツクラブ活動体制整備事業受益者負担試算

今後の課題と対応方針

〇クラブ活動費に絞って参加者に負担を求める場合であっても、一定の人数の参加がなければ賄えないことになり、持続可能性に視点を置いた時に安定性に欠けている。安価な受益者負担を求めたうえで、行政の支援が必要であるため、持続的に活動することを前提とした仕組みを構築する必要がある。

2.実証内容と成果①

スポーツ庁

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

統括コーディネーターを中心に、拠点校で５競技での活動、地域の指導者８名で事業を実施。準備期間を経て６月から２月までの休日に活動を行った。

指導者のつながりから１名と、事業に意欲的な教員２名が、今年度から指導者に登録された。新規登録の指導者に加え、既存の指導者も対象に研修会を実施した。

また、指導者の横のつながりから、定期的な合同練習会への参加や各種大会に出場し、生徒の技術力の向上を図った。

拠点校で事業に参加した生徒、保護者、部活動顧問、地域の指導者にアンケートの実施し、満足度調査と課題の抽出を行った。

さらに、拠点校以外の学校とも打ち合わせを数回重ね、参加校を増やす取り組みを実施した。

今回の参加者と事業経費を基に、受益者負担の適切な設定やそもそもの在り方、公費負担とのバランスを検証した。

●成果の評価

統括コーディネーターを配置したことにより、学校（生徒や部活動顧問）、保護者、地域の指導者、実施主体の市と連絡調整をし、円滑に運営を実施できた。

指導者は新たに３名確保することができ、増員した陸上競技、バレーボールはより充実した活動をすることができた。指導者の講習会を３回実施し、質の保障、向上につなげることができた。

他校との合同練習を積極的に取り組み、技術力の向上を図るとともに、高校生と一緒にやることで、更に高いレベルへの意識改革、技術力向上、他の地域とのつながりや世代間交流・連携などを構築することができた。

アンケート調査は実証事業開始時から連続で実施できており、全体的に満足度の高い回答が得られた。

参加校を増やす取り組みについては、打ち合わせを重ねたことにより、次年度は何を重点に展開していくか決めることができた。

●今後に向けて

統括コーディネーターの配置を継続し、円滑な運営の実施の継続を目指す。指導者の確保、質の保障や向上も引き続き行い、満足度の高い事業とする。持続可能な事業にしていくため、参加者を増やしていくことが必要であり、大会参加のための合同チームの懸念が少ない個人競技、陸上競技に重点を置いてクラブ活動と部活動を並走させながら、クラブ活動への統合を目指す。

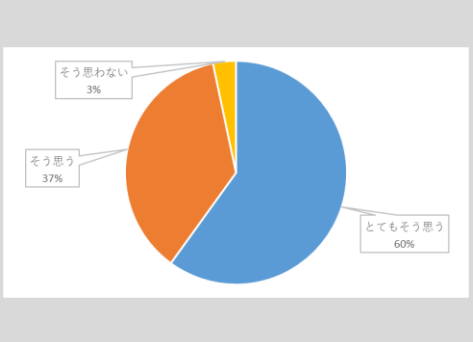
2.実証内容と成果②

スポーツ庁

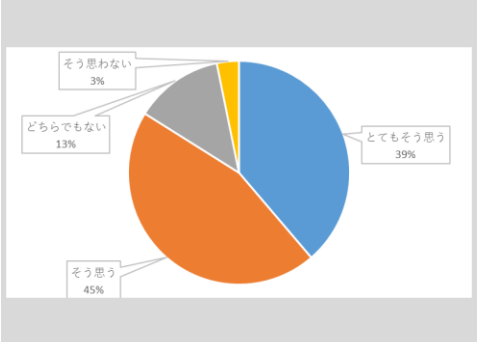
アンケート結果・参加者の声

●アンケート結果

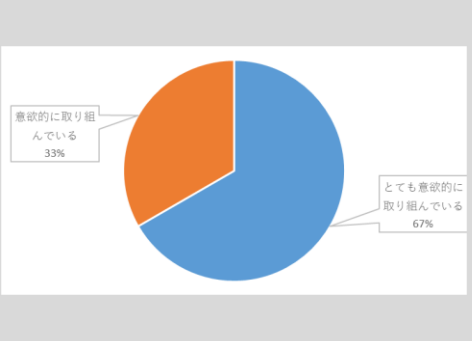
Q.「地域の指導者」熱意を持って指導していますか?（生徒）



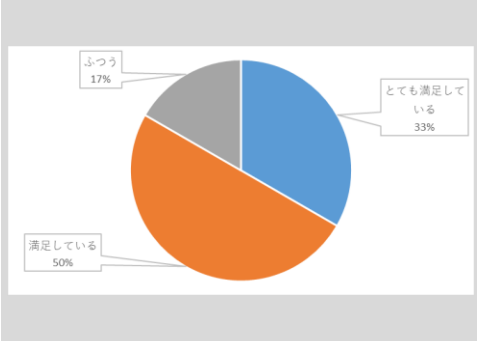
Q.あなたは活動している競技種目が少しずつ上達し、楽しくて好きになりましたか？（生徒）



Q.「地域の指導者」が担当している日は、生徒は意欲的に活動に取り組んでいいるようですか?（部活動顧問）



Q.「休日のクラブ活動指導」について満足していますか?（指導者）



白石市実証事業満足度調査アンケート（実施期間：令和６年12月）の結果抜粋

●参加者の声

中学２年生
毎回楽しい活動でいろいろ教えてもらいありがとうございます。これからもよろしくお願いします。

中学２年生
いつも集中して取り組められていることに感謝しています。いつもありがとうございます。自分も楽しんでやることができて嬉しいです。

部活動顧問
生徒は「地域クラブ活動ではこんな練習をしたんだ」と活動様子を生き生きと話してくれています。とても充実した活動に取り組めているようでとても感謝しています。

指導者
生徒たちが意欲的な事、彼らが今まで知らなかったりできなかった事が少しでも理解できたり技術の向上につながったりしたと感じられることがあるので満足している。

2.実証内容と成果③

スポーツ庁

参考資料（活動写真）



【卓球：打ち方、受け方の指導】



【バレーボール：打つタイミング、強い打ち方の指導】



【剣道：竹刀の振り方の指導】



【陸上競技：走る姿勢、足の出し方の指導】

2.実証内容と成果

スポーツ庁

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和2年 → 令和3年 → 令和7年

協議会設置、検討開始 ▶ 受け皿団体や指導者の選定、拠点校の選定 ▶ 学校現場との調整 ▶ 生徒、保護者への説明 ▶ 地域クラブ活動の開始 ▶ 地域クラブ活動の拡大

●ステークホルダー

学校、スポーツ協会、競技団体、市教委、統括コーディネーター

●経過

令和2年度に学校、スポーツ協会、市教委で検討委員会を設置し、拠点校を選定した。同時進行でスポーツ協会加盟の各協会に指導者を打診。その後、拠点校との協議で実施する部活動を選定、指導者を確保できた５部活で進めることに決定した。

●実施内容

実施が決まった拠点校５部の部員の保護者に対し、この事業の趣旨や今後の取り組み方、進め方について説明会を開催した。その後、休日の部活動をクラブ活動として実施する取組を開始した。

●工夫した点

開始当初は、休日の部活動とクラブ活動を並行して実施する形をとり、顧問の先生と地域の指導者が一緒に指導をして、参加する生徒が混乱しないように、そして平日と休日の活動が全くかけ離れたものにならないように努めた。

●実施にあたって生じた課題

スポーツ協会経由で指導者を選定できなかった競技の部活動においては、顧問による兼職兼業での対応や生徒の保護者に登録してもらい、何とか指導者を確保して始めることができた。その後、指導者のつながりやスポーツ少年団のコーチ、退職した教師や現役教師の兼職兼業での登録により指導者の確保に努めているが、まだまだ十分ではない。スポーツ少年団や地域の大学へ指導者募集の案内を出すなど、統括コーディネーターによる関係者への働きかけを検討している。

●今後の展開

令和７年からは、比較的合同チームになりにくい個人競技の活動から、拠点校以外の学校からの参加に取り組む。クラブ活動と部活動を並走させながら、クラブ活動への統合を目指す。

3.今後の方向性

スポーツ庁

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

白石市　運動部活動地域移行スケジュール（案）

